

## 研究会参加の切っ掛け，今，そしてこれから

福島問題研究会参加の切っ掛けは、当時、化学品の研究開発部隊に属していて、「この材料は事故を起こした福島第一原発（1F）の廃炉に使えないか？」→「化学技術で、1Fの廃炉、福島復興に貢献する」というような議論をしながら可能性を調査していた中、本研究会主催の1Fの見学会へ参加したことであった。事故を起こした1F、および福島の実状は自分の目で見ておくべきと感じていたこと、化学工学会の研究会主催の見学会のためハードルが高い原子力が身近に感じられたこともあって、すぐに参加申し込みをしたことを覚えている。参加した1Fの見学会では、勉強すべきことが一杯あることを痛感した。その見学会からの帰り道、研究会の先輩方のお誘いもあって、その後、本研究会に参加させていただくこととなった。

早いもので、それから約5年が経過した。当初の研究開発では貢献できないまま、今は、業務も化学品の研究からは離れてしまったが、研究会に在籍して活動を継続している。

福島問題研究会は、「1Fの廃炉推進と復興に関わる諸問題に対して化学工学が貢献できる「総合的・俯瞰的な視点」での意見・提言等の情報発信」を目標として、活動している。廃炉は40年以上というような長期間を要する大事業であり、事故後11年経過した今でも確定できていない様々な問題を抱えている。本研究会においても、度々、同じ問題について繰り返しの議論をおこなっている。一方で、新たな疑問が出れば、勉強して調べて、意見交換をおこなう。最近では、1Fの事故に関わるデータ解析においてAI（機械学習）にも挑戦している。まだまだ研究会の目標にはほど遠いと思っているが、これからも、継続こそが目標に近づく道であると考えて、体力の許す限り、気概を持って研究会の活動を続けていきたい。

（SCE・Net 福島問題研究会 伊達雅志）